

高齢者機能評価を用いたがん患者のリスクアセスメントを基盤とした治療方針の決定の検討

(Comprehensive Geriatric Assessment : CGA)

研究基盤

CGAアセスメントツール

G8

スクリーニングツール

IADL (Instrumental Activities of Daily Living)

身体機能を評価する最も一般的なツール

CCI (Charlson comorbidity index)

併存症の種類および重症度に関するスケール

居住状況 (Social situation)

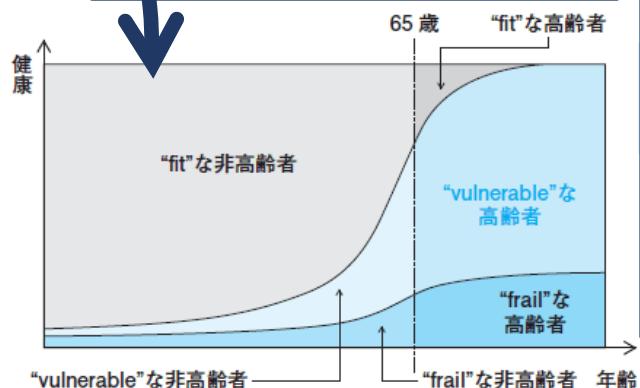
社会とのつながりを反映する指標

MINI-COG

認知機能のスクリーニングツール

CGAにて3つの患者に分類し治療

①fit.②vulnerable. ③frail



研究第2段階：2023年

本研究の検証事項

- ①CGAにて患者を3つに分類できるか
- ②医師の治療方針とCGAの治療方針の相違を検討
- ③上記に加えて、合併症、予後の相違の検討
- ④CGAの有用性あれば、徳島大学病院への導入検討

産科・婦人科分野
研究クラスターの
結果比較

診療現場における実現可能なパイロットスタディ作成

研究第1段階：2020～2022年

肺がん患者の初診時

CGAの実施



治療後1か月

CGAの実施

治療後3か月

CGAの実施

治療後6か月

CGAの実施

徳島大学病院の呼吸器外科に
受診した肺がん患者を全数対象にして、
左図の時期に実態調査の実施
(受診時、治療1か月後、3か月後、6か月後)

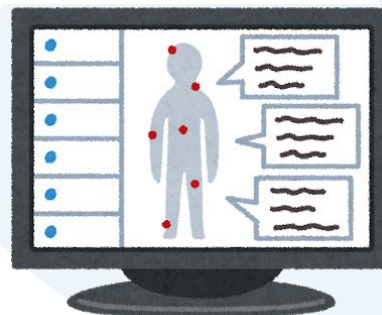
2年間で下記のデータ収集

CGAの経過記録+患者基本情報(年齢、PS、進
行期、組織型、腫瘍サイズ、Hb、Alb、CRP)、
治療方法、症状、副作用症状、治療経過、晚期
合併症、生存期間、再発の有無

研究第3段階：2024年

Tokushima University Hospital
徳島大学病院

徳島大学病院における診療情報に CGAを組み入れていく診療体制の構築



CGAを電カルへ搭載

日常生活の援助に基づいた
リスクアセスメントを実施、
看護師の役割拡大へ

